

事業報告

令和5年度 第2回大分県社会教育行政職員専門研修会

日時：令和5年12月15日（金）10：00～15：40

会場：大分県立図書館 第2・3研修室

参加者：29名（10市町村24名、県5名）

<趣旨>

県下の生涯学習・社会教育の推進のために、事業遂行の中核的役割を果たす県及び市町村社会教育行政職員等を対象として、その資質・能力の向上を図る。

今回は、「社会教育事業をメタ認知する」をテーマに、既存の社会教育事業をさまざまな視点から捉え直し、成果や課題について検証する。そして、参加者各所属の担当事業の社会教育的意義や今後の展望等について、新たな学びを得る機会とすることを目的とする。

【研修1】10：15～12：00

講義：社会教育事業をどのように企画し、運営することが望ましいか

講師：大分大学 教育マネジメント機構基盤教育センター 教授 岡田 正彦 氏



午前中、大分大学教授の岡田先生の講義を受講しました。私たちが実施している社会教育事業はそこに関わる様々な関係者に直接的な成果をあげてきていると考えられます。社会教育活動の裾野が拡大しつつある現代社会においては、それだけでは十分ではなく、そこからどう波及効果を及ぼしていけるかがとても大切なことであるというお話を聴かせていただきました。

学んだことを自分の所にとどめておくだけでなく、周囲に広げていくという視点は極めて社会教育的であり、大切なことだと改めて気付かせてもらいました。

【研修2】 13:00~15:30

シンポジウム・演習：担当事業を見直してみよう

コーディネーター：大分大学 教授 岡田 正彦 氏



午後は、シンポジウムと演習を実施しました。シンポジウムでは国東市・由布市・玖珠町の事業担当の皆さんを交え、実際的な社会教育事業の現状について深掘りしていきました。社会教育事業の意義とともに最前線で奮闘する皆さんの思いまでも共有することができる大変有意義な会となりました。後半はグループでワークショップに取り組みました。市町村等、所属の違うもの同士、社会教育行政職員としての共通点、差分点を共有しつつ相互に学びを深めることができました。

<参加者感想>

- とても勉強になりました。違う所属の方々と意見交流ができてよかったです。事業の悩みなど共有でき、それぞれの解決策を見出して自分の職場・事業に活かせたらと思います。
- 他市の職員の方と交流することで、自分には気づけない新たな視点からの意見交換ができ、自分の事業を改めて再確認できた有意義な時間となりました。
- 事業を組立てる時の視点を学ぶ事ができました。また、障がいの有無に関わらず参加できるユニバーサルな事業も挑戦したいと思えました。
- 市町村の事例発表は具体的でわかりやすく、シンポジウムも担当者の取り組みへの思いなどわかって非常に良かった。ワークも他視点で自身の事業を見てもらい改めて課題について考えられた。意見交換はやはりとても刺激をもらえる場で今後も引き続き開催をしてもらいたい。
- やはり対面で多くの人と意見を交わすと新たな気づきがありました。とても良い振り返りや発見もありましたので実践に活かせるよう務めていきたいです。
- 内容の濃い、充実した研修でした。午前中の講義では、地域に波及効果が生み出せているのか、という視点にハッとさせられました。
- アットホームな感じで演習を行えて同じような課題があり安心した。大きな事は出来ないが、出来ることからやっています。